

電友会四国連合会報

第 37 号

57. 1



目次

年頭にあたって	四国電気通信局長	二	
年頭のごあいさつ	電友会四国連合会長	二	
愛媛電友会総会		三	
電徳徳島温古会総会		三	
扶養控除等申告書		三	
共済会だより(六)		四	
秋の生存者叙勲		五	
電信電話記念日の表彰		五	
余 栄		五	
OBサークルだより		五	
表紙のことば	莊野 丹秀	六	
会員だより	大元 新平・佐々木 光	六	
特 集	私の生き方	七	
猪谷 嘉夫	井上 広次	幸田 廣男	後藤 稔
高原 博	近沢 美義	永井佐加一	三木修太郎
森田 政雄			
随 筆	高橋 数一・高市 沖見・田中 義隆		
	藤田 基孝・横山 竹義		
短 歌	山内 旬一・藤田基孝	二	
俳 句	高知やまもも句会	三	
計 報		三	
編集後記		三	

年頭にあたって

四国電気通信局長

藤 田 史 郎



電友会の皆さま、明けましておめでとうございます。皆さま方には、ますますご健健で佳い新春をお迎えのこととお慶び申しあげます。

旧年中は、公社事業につきまして格別のご協力ご支援を賜り心から感謝申しあげます。電友会も発足以来十四年目を迎え、年を重ねるごとに、ますますご発展を続けられ、まことにご同慶にたえません。

私も電信電話事業につきましては、創業以来百有余年、皆さま方諸先輩の献身的なご奉仕とご努力によって、幾多の困難を克服しながら、設備の拡充とサービスの改善に努めてまいりましたが、その結果、全国への加入電話は三千九百万台を超える巨大なネットワークが形成されるまでに成長いたしました。

四国でも、公社発足時のわずか五万四千台足らずの電話が、この三十年間で百三十八万台近くまで急増いたしました。特に最近では、データ通信、ファクシミリなどの非電話系サービスの普及がめざましく、昨年中にも「高知県救急医療情報システム」「ミニファックス」「データテレホン」等の新しいサービスを導入し、地域社会の要望に応じてまいりました。私どもは、今後も新しい商品やサービスの

普及・拡大をはかるとともに地集の一般化や過疎地対策など、地域的なサービス格差の是正に努めていきたいと存じます。

さて、二大目標達成後の今日、電気通信は経済活動や国民生活に欠かせないものとなっております。国民の電気通信に対する要望は、さらに高度化、多様化していくものと思われれます。

電気通信産業の中核的役割を担う公社として、これに適切に 대응していくことが事業にとって大きな課題であり、将来の電気通信と情報処理が融合していく姿を的確に展望しつつ、デジタル化による通信網の経済化、高度化を推進し、将来の高度情報通信システム、いわゆる「INS」の形成を目指して、計画的かつ着実に事業を進めていく必要があると考えております。

一方、昨今の公社をとりまく経営環境は一段とその厳しさを増しております。皆さまが案内のとおり、昨年は「本電話機の開放」「データ通信回線の自由化」「公社民営論」等々、公社の根幹をゆるがすような諸問題が提起されてまいりました。

私どもは、これらの事実を冷静に受けとめ全職員の意識改革をはかることにより、いかなる変化にも対応できる心構えと未来を先取りする精神で前進しなければならぬと考えております。

今年、公社発足三十周年にあたります。私どもは、この意義深い年を迎えるにあたり電気通信の社会的使命の重大さをいっそう自覚し、真に地域の人々に親しまれ、信頼される「町の電話局」づくりを推進していく所存でございます。

電信電話事業を愛され、深いご関心とご理解

解を持ってもらえる先輩の皆さま方には、ぜひとも地域社会と電電公社との接点になっていただき、ご支援いただくとともに、旧年にもましてご指導、ご鞭撻を賜りますれば幸甚に存じます。

終りになりましたが、皆さま方のますますのご健康とご多幸並びに電友会のご繁栄を心からお祈り申しあげ、私の年頭にあたってのごあいさつとします。

年頭のごあいさつ

電友会四国連合会長

泉 節太郎



電電退職者の皆様、明けましてお目出度うございます。今年も皆様にとって、お元気で幸せな年でありますように、とお祈り申し上げます。

り申し上げます。

さて、皆様すでにご承知のように、昭和五十六年度の年金改善は、仮定俸給に対し、平均四・四％ということで、昨年四月から実施されておりますが、昭和五十七年度については、未だ見透しがついておりません。本紙がお手元に届く頃には、何とか目鼻がついているのではないかと思われれますが、それにしても、あまり大きな期待はもてないのではないかと気がいたします。

その原因の一は、今年度の物価上昇率であります。年金の改善は前年度の小売物価が五％上昇した場合ということになっているそう

であります。先日の厚生大臣の言としての新聞報道によりますと、十月末現在の今年度の物価上昇率は四・九%で、五%の条件を充たしていません。が、来年度予算の概算要求を出した頃は五%を超えていたので、予算要求はしている。そこで、この要求に基づいて改善方実現したい、ということでありました。

ところで、今国会では、行政改革臨時特例法案が審議されております。そしてこの法案の狙いは、国費の支出削減ということであつてみれば、来年度予算はこれによって大きく影きょうされるのではないかと思われるからであります。

また年金制度の将来を、長期的な観点に立って展望した場合、その見透しは、必ずしも望ましくないものを含んでおります。

それは、日本人人口の急激な高齢化による年金財政の行き詰りということでありました。

その典型的な例は国鉄であります。去る十一月五日付朝日新聞の記事によりますと、昭和五十五年国鉄共済組合員数は四三、〇〇〇人、それに対し、退職年金受給者の数は、二二一、〇〇〇人で、組合員一・九人で一人のOBを養っている勘定になるというのです。そして国鉄共済組合収支計画策定審議会（今井一男会長）がまとめた収支計画によると、昭和五十九年までは何とか持ちこたえられるが、昭和六十年では赤字になると言っています。この赤字を何で埋めるか、組合員の掛金値上げにも限度があります。さりとて、年金額削減は、受給者からの反発が予想せられます。

また先年来、国会で年金の官民格差が論議せられております。こうした環境の中にあつては、従来のよう

な改善は期待できないのではないかと思われ

ます。そこで、われわれとして、できるだけ改善への努力はしなければならぬが、また一方生活の仕方として、「たとえ貧しくとも心豊かに」という考えをもつ必要があるのではないかと思ひます。

愛媛電友会総会

第二〇回総会は、菊花薫り、こよなき快晴に恵まれた一〇月二八日、松山郵便貯金会館に三五〇名が出席、盛大に挙行された。

泉会長の「会員数六五七名に達したことへの賀意、長寿者への祝意、物故会員への弔意、年金改善経過と将来展望」などの挨拶に始まり、片岡愛媛通信部長から祝辞を述べられ、電電公社の現状、公社をとりまく諸問題など、有益なお話があつた。

つづいて、物故会員への黙祷、新会員紹介、長寿者への記念品贈呈のあと、議長に堀内氏を選出、議事に入り、五十六年度業務報告、会計報告を承認、会則改正案、五十七年度事業計画案、予算案を原案どおり決定した。

役員改選では、会長、副会長を再選、他の役員も全員留任され、午後〇時半閉会した。

この後の愛媛通信部長ご招待の懇親会では、懐かしの面々、久方の再会だけに、場内ひとさわ和み、盃を重ねる程に、さすがの大会場も談笑の埒場と化した。つきぬ名残りを惜しみつつ、午後二時半散会した。（高市記）

電電徳島温古会総会

第二十回温古会定例総会は、去る十一月十一日（水）午前十時から徳島駅前阿波観光ホテルにおいて、会員百四十名出席の上開催さ

れた。

総会は、冒頭物故会員に弔意黙祷を捧げた後、豊崎会長のあいさつについて、顧問の山崎通信部長、本田徳島報話局長からそれぞれあいさつをいただき、公社をめぐる経営環境の極めて厳しい情勢や、現場徳島局の現況等について、会員一同一層の認識を深めた。

続いて、西村、長田両先生からの祝電が披露され、新顧問の中藤、多田通信部両次長をはじめ、新会員二十二名の紹介があり、本年米寿、喜寿、古稀を迎えた方々に会長から記念品が贈られ、出席者一同の拍手で祝意が表せられた。

このあと、幸田廣男氏を議長に選出して、議事に入り、五十五年業務報告、同会計報告が異議なく承認され、次いで五十六年度業務計画案が提案どおり議決された。

役員改選については、現会長が満場一致で再任が決議され、予定どおり議事を終了閉会となつた。

引続いて、全員の記念撮影を行い、十二時三十分から席を移して、懇親パーティが開かれ、和気あいあいの裡に旧交を温め、楽しく賑やかに談笑の一時が続いた。

扶養控除等申告書

お出しになりましたか。提出期日は一月十日です。年金を主たる収入としている方は扶養控除対象者の有無、年齢にかかわらず、申告書を四国電気通信局職員部厚生課共済係へご提出下さい。

また確定申告の期間は二月十六日から三月十五日までです。該当する方は最寄りの税務署に申告をしてください。

共済会だより

(六)

◎OB大学(園芸科)実習見学中心に

四年目を迎えるOB大学は、実習見学を中心に研さんに努めています。

本年度第二回目の園芸教室は、五月三十日「奥道後のさつき展」を渡部義綱先生の案内で見学、絢爛豪華なすばらしい鉢からミニ盆栽まで、たくさんの実例を見学し、「花疲れ」と言いたいほど堪能しました。

第三回目は、九月十八日「造園について」西日本一といわれている渡部家の庭園を見学し石鎚山系と瀬戸の島々を背景とした庭づくりから家庭で楽しむ果物や野菜づくりのコツまで理論と実際の経験を、しかも実物を目の前にして説明を受け、爽りのある講座であった。

第四回目は清涼の十月二十九日から一泊二日で広島の植物公園見学にでかけました。出発当日は、昨夜来の雨もあがり二日間秋晴れの快晴に恵まれ受講申込者四六名は、一名の欠席もなく予定どおり植物園及び縮景園を見学しました。

大部分の人には旧知、想い出の土地でありましたが、植物公園は初めての方がほとんどで広大な規模、豊富な植物に感嘆!! また、縮景園は、旧藩主浅野公の別邸で「泉邸」とも呼ばれている素晴らしい眺めに時のたつのを忘れる想いであった。OB大学(園芸科)四年修了の見学旅行は楽しい想い出になったのではないかと思います。

この電友会報が、皆さんのお手許に届くのは新年早々、第五回目の園芸教室の「手作り

の正月盆栽」は如何でしたでしょうか?

◎昭和五七年度の電OB大学について

松山近郊の退職者を対象に四年間、電OB大学と銘打って園芸教室を開設していましたが、五七年度からは一般教養科に切りかえ従来の方法で「文化講座」(保健、郷土史、宗教、史跡、時事、趣味、その他)を開設する予定にしています。

具体的なスケジュール等が決定次第別途ご案内しますので多数の方々の参加を期待しています。

◎高松で文化講演会開催

新涼の九月十二日高松電話局大会議室をお借りして、共済会主催の恒例の文化講演会が開催されました。

香川県健康協会会長の小林玄道先生(八〇才)が、「高齢者の生き方」と題して、我が国は敗戦で大きな痛手をうけたが、戦後めざましい発展成長を遂げ、衣食住とも便利ですばらしい生活ができる反面、公害等で一億半病人の状態であると前置きして、五十年間玄米食を食べて今日まで元気ですごしてきたられた体験と、医師として患者を診てきた立場から、①病は気から ②薬にたよらず ③自分の体は自分で守り ④寿命は食生活にあると玄米食のよさをすすめられた。

また自然は我々に何かを教え訴えている。自然の法則に従った生活が必要で、長寿の秘訣は……年をとっても「何んでもやれるのだ」「やるんだ」という気迫をもって①歩くこと(足を鍛える)②本をよく読む(ボケないための頭の体操)③物事にクヨクヨせず(楽天的に)明るい生活を心がけるよ

うに力説された。

一、身土不二の原則

身体とその土地は密接な関係がある。その土地で生産される生きたものを食べる。

二、心身一如

老衰も心から取り越し苦労せず感謝の気持ち、腹八合医者いらず

大食は胃に負担がかかる。怒ると胃の活動が止る。無理をすると病気になる。

四、玄米食(玄米とハト麦混合)はよく噛んで(ひとくち五十回)

玄米食を強要するつもりはないが、老後の幸は、「健康で喜びや生きがい」を見出すことである。そのためには、「生き生きとした心」と「食生活の改善」が必要であると結ばれ多大の感銘を与えた。(久米)

◎松山でも文化講演会開催

秋晴れの十月十七日午後、電気通信共済会による恒例の文化講演会が、松山市番町公民館で開催された。

いつも和服で温顔の大山澄太先生が、「心身老成の道」についてお話をしてください。思い出の足利紫山老師、西田天香師などを挙げ、エピソードをまじえながら、一人一人の胸にしみとおるように語りかけられる。八十をこえてかくしゃくそのものの先生と話題はまさにぴったり、食事のこと、薬草のことなど有益な話は尽きず、予定の一時半はいつの間にか過ぎていた。

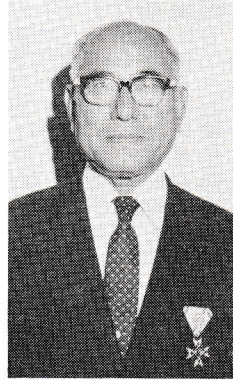
それにしても私たちは、この大切な老後の日々をなござりにしているのではあるまいか、と強く反省しつつ感謝の拍手を送った。



小野英雄氏



野本登美江さん



松本幸男氏

秋の生存者叙勲

昭和五十六年秋の叙勲に左記の方々が多年にわたり電気通信事業に貢献されたご功績により叙勲の栄に浴されました。ここからお喜び申しあげます。

勲四等瑞宝章 松本 幸男殿(堺)
 勲六等瑞宝章 野本登美江殿(松山)
 勲七等 青色桐葉章 小野 英雄殿 (観音寺)

余 栄

ご逝去されました左記の方々に対し多年電気通信事業に貢献されましたご功績により叙位叙勲が行われました。

正五位勲五等瑞宝章(五・五・三)
 故 高 橋 清 秀 殿(西条)
 正六位勲五等瑞宝章(五・五・一〇)
 故 井 上 万 吉 殿(松山)
 従七位勲六等瑞宝章(五・六・一五)
 故 田 窪 実 殿(今治)
 従七位 木 杯 (五・六・一五)
 故 森 田 秋 寿 殿(宇和)
 従七位勲六等瑞宝章(五・六・二五)
 故 久 保 実 太郎 殿(松山)
 勲六等瑞宝章 (五・六・七・九)
 故 須 崎 権之助 殿(松山)
 正七位勲六等瑞宝章(五・八・六)
 故 谷 口 彪 殿(琴平)
 正七位勲六等瑞宝章(五・八・三)
 故 名 木 一 明 殿(松山)

電信電話記念日の表彰

十月二十三日の第三十二回電信電話記念日に次の会員各位にそれぞれ感謝状が贈られました。おめでとうございます。

四国電気通信局長表彰

(長年にわたり電信電話事業発展に尽力)
 友 沢 照 一 殿 (松山)
 池 田 清 澄 殿 (高松)
 越久田 保之 殿 (徳島)
 長 崎 輝 喜 殿 (高知)
 川 津 ヨシ子 殿 (高松)
 (長年にわたり用地折衝業務に従事し建設工事の推進に尽力)
 福 家 辰 次 殿 (高松)

OBサークルだより

電電OB軟式庭球今年のあゆみ

電電OB軟式庭球クラブも発足して四年目を迎えて順調に発展しています。

今年も春季、秋季の練習会を予定どおり開催するとともに現役との親善試合を行い、地方大会では、市民大会春季木村溝田組、秋季吉村木村組、五味杯木村組、敬老大会小松組溝田組がクラス別でそれぞれ優勝し、電電OBの名を大いに揚げています。

なお秋季練習会は秋晴れの十一月二十一日堀之内市宮コートで、新規加入の内藤女史を加えて十数名が参加して実施、終って本年締めくくりの納会を和やかに行った。(木村生)

- 試合結果 優勝 小松重幸、玉木 昇組
- 同率 吉村英雄、内藤福子組
- 二位 田中 進、溝田 実組
- 田中 進、永井 初組
- 三位 木村利一、二宮正巳組

囲碁講座はじまる

愛媛電電退職者囲碁同好会では二ヶ月に一回のわりで碁会を催し、技術の向上と親睦の増進につとめているが、今回囲碁講座を開くこととなり、その第一回を去る十月三日多数聴講者参加のもと、『ともがき荘』において開催した。講師は日本棋院愛媛県支部の小山先生で、当日は講義のあと先生の指導碁が行われる等盛会であったが、聴講者からは一日にして大いに技術が上達した感があったと、大変好評であった。

同講座は五十七年三月まで、毎月第三土曜

日の午後一時から『ともがき荘』において行われる予定である。
どなたでも聴講できます。
(内原)

紅葉の高的瀬峽に行く

徳島電健歩会は、人出ラッシュを避けて、十一月一日と三日の飛び石連休の狭間の二日に、県下最高の紅葉の景勝地といわれている高の瀬峽へ遠く足を延ばすことになった。
当日は未明から雨が降り始めて、あいにくの行楽日和となったが、天候不良にもめげず、岩田会長ご夫妻のほか女性五人の参加で、華やかな彩り?を添えて、全員二十名は若やいだムードを漂わせながら、チャーターしたマイクロボスに乗車して、早朝七時三十分徳島駅前をスタートした。
降りしきる雨を衝いて、車は那賀川沿いに国道を走って、十一時前に高の瀬峽に到着したが、タイミングよろしく紅葉は最盛期に入っていて、全山真紅に燃え立つ眺望は筆舌に尽し難い美観である。秋雨にしとど濡れた、もみじ葉から滴る雫に、ほのかな情感を覚えながら茶店で小憩後、更に車を進めて、異境を越え高知の別府峽を訪れた。これも高の瀬峽に勝るとも劣らない美事な紅葉に、我を忘れてうっとり見とれるのであった。溪流のほとりの食堂で和やかな歓談の中に、昼食を済ませ、一時三十分帰路についたが、土佐のアルコールはひと味違つてききめもよく、車内は俄然賑やかになり、弾む歌声と朗らかな笑い声を乗せて、バスはようやく雨が止んだ国道を快走して、たそがれ迫る頃長途ドライブの疲れも見せず徳島駅前に帰着した。
今月の健歩会の行事は、予期しない激しい雨のため、会の基本ルールである十キロ程度歩行は困難となり、いささか残念であったが、ゆく秋を惜しみながら自然の美しさと触れ合

つて、ほのぼのと心安らぐ楽しいレジャーの一日であった。

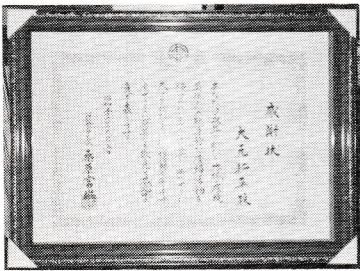
表紙のことば

南 天 莊野 丹秀 (内海)
足早やに秋が去つて、冬が訪れるころ、庭の南天が色つき始める。
紋鱗がチイチイと鳴きながら赤い実をついばみにくればもう早春です。新春です。

会員だより

大元 新平 (西条)

昭和四十二年五月十六日に公社を定年退職した大元新平です。退職してもう十四年半になります。子供達も皆一人前になり、私たちが夫婦も揃って元気で心配こともなく毎日を楽しく送っております。退職後は、西条市内の公衆電話ボックスの清掃を続けており、また西条市交通安全協会、西条市神拝老人会、西条市身体障害者の会、伊曾乃神社氏子総代等の役員をしていますが、五十六年五月二十九日に交通功労者として愛媛県警察本部長から、六月二十一日には国有鉄道四国総局長から、また九月五日には西条市制四十周年に当り美しい町づくり運動の貢献者として西条市長から、それぞれ感謝状をいただきました。これからも元気で頑張るつもりでございます。



青い四国よ温かい友よさようなら

佐々木 光 (枚方)

「十一月の末に松山を離れて子供の居る大阪へ行くことにしました」と挨拶に参上いたしますと「都会から松山へという人が多いのに、あなたは逆ですね」と妙な顔をなさいます。私は決して左巻きでも右巻きでもないのです。意地悪爺さんを気取って愛媛新聞に川柳を書いていますが、趣味は趣味、年寄りになれば子供と暮すのが安心と思つたからです。「大阪は鬼門ですよ」とも言われます。しかし日本列島は東北方に弓なりになっていきますから、日本自身が鬼門の方向になる訳で、その中でどう動こうと些細なこと、だから心配していません。幸いなのは大阪と言つても枚方です。住居は京阪線楠葉駅(急行停車駅)に近く京都三条まで二十五分、大阪淀屋橋まで三十五分です。私は定期券を買って毎日京都へ遊びに行くつもりです。秘かに「京都征服」を楽しみにしており、行く先々でうまいものを食べる、こんなことを夢見る日もあるのです。でも、女房は「強がりと言つて」と信用してくれないのです。それも当然です。終戦後三十数年、四国に住みつき青い空、青い海、やさしい友に恵まれたことを思えば、枚方は異国?かも知れませんね。
「なあに、人生到る所青山ありさ」無理にこう思つて、正直なところ淋しさをまぎらわしているのかも。
電友会の皆さん、本当に長い間お世話になりました。ありがとうございました。どうぞご愛下さい。ご多幸をお祈りいたします。お別れのご挨拶いたします。又お会いできる日まで、さようなら。
① 573枚方市北楠葉八一
(電話〇七二〇一五五二六四〇)

特 集

私の生き方

長寿礼賛

猪 谷 嘉 夫 (高松)



定年退職後、いつとはなしに早くも二十年近くになった。私は元来余り丈夫な体ではなかった。在職中にも無事に定年を迎えられるかとの懸念があった。定年も無事に通過これまで永い間の苦労から解放されたので、余生だけは気楽に過したい気持ちが多分であった。そのためには何はともあれ病氣しないことである。病氣をすれば自分自身も苦痛であるばかりでなく、周囲の者にも心配をかけた。迷惑を及ぼすから、これだけは是非避けたいと念願していた。それには食事にも気を付け、適当な運動をするのが最良と考えた。

健康を守るに欠かせないものとして、バランスのとれた食事が強調されておるが、私は子供の時から好き嫌いが多く、余りそれにはこだわらず、唯有害と言われるものは避けるとしても、大方は好みに合ったものを主にしておる。然し偏食だけはしない。食事の質もさりながら寧ろ食事時刻を規則正しくすることが肝心かと思う。私はやせ型で早くから白髪になったことから、胃ガンの素質があるのではないかという心配があった。胃ガンは刺激過剰によるという刺激説を信じておるので、極度に熱いものとか冷いものは取らないし、刺激の強い香辛料も用いない。酒もたばこもやるが節度を弁えておる。

適当な運動と言ってもスポーツは苦手。冷

水摩擦は六十年近くやっておるし、軽い体操―屈伸動作に重きをおいて自分で適当に組合わしたものを一つづけておる。また現在の所に住みついてから毎朝近くの山を歩く。これらは私の日課である。また数年前から、あるハイキングクラブに席をおき、毎月一回軽登山もしておる。歳をとるともすれば何かにつけて億劫(おっくう)になりがちだが、日常の雑用でも積極的に取組むことにしておる。要はこまめに体を動かす習慣をつけることが小事の大事。こんな訳で私は退職当時に比べて現在の方が体の調子がよいように感じておる。

閑中に忙を求める

井 上 広 次 (高知)

二年半ばかり前に、第二の勤めも退き「忙中有閑」の生活から、全く離れて「閑中閑あり」の日を送るようになった。

寒暑の通勤の停留所の立ち待ちや、すし詰めバスの苦しみからやっと抜けて、やれやれとおもった途端、会う人ごとに下世話に言う「小人閑居すれば不善をなす」だの、「からだも心もなまらくらになるぞ」「脳軟化が早まる」などの忠告をうけはじめたものである。

そこで、やはり我が身は可愛いもので、自分の生き方も閑中に忙を求めて、この懸念を払ねばと念じている間に、電々O・Bの会へ顔を出したり、町内会にも口を突込んでみたりするようになったのも、思えば倅なことであった。

ひよろりとした茎に、唯、赤や白黄の花を咲かすだけの菊作りや、下手な俳句に身の入りはじめたのも、遠い原因はここにあったように、菊作りは年中何やかと用があり、俳句

には吟行といううってつけの屋外活動がくっついていて、家の中では偉い人の書いた歳時記でも読んで、下手な句を上手に見せようと苦労するのは、格好の頭の体操になる。

でも、晩酌で二日酔いしてみたり、忘れごとが多くなつたことを家内から叱られたりすると、まだまだ閑中に忙を求め足りないのだから、年齢のことを忘れた考えを起こしてみることがある。

お忙が氏

幸 田 廣 男 (徳島)

長い公社勤務を卒業してみても、私生活が予想以上に忙が氏なのに驚いたり、感謝したりしています。

毎月第一土曜日はゴルフ同好会(八〇会)のコンペがある。第三土曜日には俳句の眉秋会の定例会、第四土曜日はマジック同好会があり、アウトドアにインドアにと機会に恵まれ、お世話になっている。

さらに多趣味な人は第二土曜日に囲碁・将棋。ほかに月一回の歩こう会がある。

サンデーゴルフ。サンデーファミリーとしては全部は参加できないが、結構お忙が氏である。お世話役のおかけと感謝感激である。お世話になるばかりでなく、いざれお手伝いをしなければと自分にいきかせている日々であるが、現実には甘えっ放しである。これがお忙が氏でなければ大変なことになるんだらうなアと思っています。

食前・食後・食間にとアルコール漬けになる危険性は多分にある。「そのうちに、つい手がふれ……」はお色気に限らぬ。ワインも同じ、ウイスキーもやはり、折角ヘビースモーカーから脱出できたのに、アルコールに仇

討ちされたのではかなわない。

お忙が氏万才！ 乾盃！ おっとこれは自
粛ときましよう。可愛い孫たちのためにも、
最愛の妻のためにも……。

そして、そして、もっと健康でいて、某先
輩の言にもあった「一本の除草から」でも、
社会奉仕を考えるべきであろう。

サイクリング

後藤 稔（大洲）

久しく自転車に乗ったことがなかった私が
公社を退職し健康とひまつぶしの目的で自転
車を買った。まえから自分の自転車をよく乗
りまわしていた妻に、サイクリングの相談を
持ちかけてみたら喜んで賛成した。手はじめ
に野村町へ行くことに決め、地図、弁当を準
備して早朝に出発した。妻は日焼け止めクリ
ームを塗り白手袋姿で勇ましく先を走る。

肱川町を過ぎた頃から、新車のサドルが固く
て尻が慣れず痛みを覚えはじめ、だんだん遅
れて先を行く妻の姿が見えなくなり、負けて
たまるかとペダルを踏むが、乗り慣れた愛車
で先を行くものとの差は開くばかり。ようや
くにして木蔭で休んでいる妻に追いつき小休
憩、出発から一時間足らず走ったばかりでこ
のていたらくでは……と大いに奪発。鹿野川湖
の美しい景色を横目に見ながら重いペダルを
踏む。やっと野村町の商店街に入った。

単車で幾度か来たことがあるこの町並みは
私には珍らしくないが、はじめての妻は左右
の店を眺めていい街だと盛んにほめる。

丁度昼食時になっていたので、愛宕山公園
に登り弁当を開いたが、遠い道のりを乗り抜
いたあとの弁当の味はまた格別で、サイクリ
ングの別の楽しみを見つけた思いであった。

帰りは野村ダム、宇和町を廻り日がトップ
リ暮れて家に着いたが、このころみによつ
て私も妻もサイクリングに自信ができ、幾つ
かのコースをつくって天気の良い日を見ては
サイクリングに出かけるが、帰ってから途中
のあれこれを語り合い次の計画を組むことが
無上の楽しみである。

六十の手習い

高原 博（阿南）

もう来年は還暦という年齢で何かスポーツ
をと考え、年齢性別に関係なく出来る弓道を
はじめるとを決意した。弓の入門書や手引
きの類をあれこれと読むうち、人生修行の上
でも教えられるところが多く、禮記の「射は
仁の道なり。正を己に求む。己を正しくして
後に発す。発して中らざれば即ち己に勝つも
を恨まず之を己に反求するのみ」といった
ような文句を弓書で見つけたときは非常に感
激した。今では自分の一番好きな言葉になっ
ている。

三段の資格審査のとき、弓道連盟会長が、
「的中だけを望むならば何も和弓をする必要
はない。他にアーチェリーやライフルもある。
真の人間完成こそが弓道の目標である」と言
われたが、正に至言、今後一層の精進を誓っ
たことであった。

弓道の基本で大切なことは、立つ・坐る・歩
く等の日常普通の動作、これを弓の術語で
体配と言っているが、これをいつも意識的に
行うこと。また武道の心得は「隙のないこと」
「むだのないこと」この二つであると折にふ
れ指導者から聞かされたが、よく考えてみる
と平凡な言葉の中に武道の極意が含まれてい
ると思われる。「内志正しく外体直き」こと

を要求せられるのが弓道であるが、その間に
心の病氣と共に体の疾患にも良い結果を得る
ことは、数年来レントゲン検査で要治療であ
った十二指腸潰瘍が全治したことでもわかる
と思う。弓を矢尺一ぱい押し開いて自己のす
べてを尽くして天地の間に伸びひろがるよう
な心境、機到れば自然の中に矢は弦を離れパ
ンツと言う快音と共に矢は的心を貫く。誠に
痛快、ストレス解消に最適。弓を立禅と呼ぶ
のもこんなところからきたものであろうか。
目標とする道は遙かに遠いけれども弓を引
くことが楽しくて仕方がない。元気で毎日弓
を引けることが無上の幸せだと思っている。

半世の記

近 沢 美 義（高知）

たいへんにすばらしく、やり甲斐のあった
公社生活での思い出を何かにまとめてみたい
と考えているが、いまだ実現していない。い
ろいろ思いめぐらしてみると、この半世の中
味は、範生期であり、繁盛期でもあったが、
一面、半生氣、半精期、半誠意の時も幾星霜
の流れの中に浮んでくる。公社ひとすじの半
世紀はまさに反省の歩る記ともいえよう。

故あって、故郷の電電会館に第二の職場を
戴くことになったが、これまた結構に楽しく
すばらしい。全く新しい視野にたつて、喜
ばれる接客と、よりよき企業経営に取り組む
ことができるのはほんとにありがたいことだ
と思う。

会議に宿泊に宴会に、御利用客は、現職、
OB、関連企業等々、必らずといってよい程
知り合いがいる。新しい友人ができる。すぐ
に成果がハネかえってくる。しかもそうした
中で、かつて育てた有為の人材が成長してい

く様も見守っていくことができる。物の考え方、見方は百人百様であろうが、世の中の生き甲斐、やり甲斐は、現在のおかれている環境の中で打ちこんでいけるものが明らかにあることではないだろうか、毎日、よどみなく身体と頭を使ってはげみたいと念願している。桶谷某氏は、人間を悪玉とし、善玉になろうと努力しているところが、よさであり、尊いと説かれているが、私もそう思いたい。私流に言えば、世の中は、条件社会、比較社会、譲歩社会であると思う。その中で自分自身をかため、われ、人共によるこぶことをできるだけ多くしていきたい。これがわが生き甲斐の柱だと考えている。生硬多謝

奉仕に生きる

永 井 佐加一（松山）

歳月のたつのは遅いようでも過ぎてみると早いものです。私も日本の平均寿命を無事に突破し、喜寿を迎える年になりました。福沢諭吉先生の心訓に「世の中で一番楽しく立派な事は、一生涯を貫く仕事を持つことです」とありますが、私も退職後は何か社会福祉活動に役立ちたいと思い、老人クラブ活動、松山市茶のみ友達会、愛媛県老人技能サビビスセンター、老人交通安全推進委員、農協総代等をつとめ、多少なりとも社会のために、との念願をこめて勤めてまいりました。また、年に三月と十二月の二回「老人と子供の談話室」を開き、小学校生徒（五、六年生）三十名程を集め、三月には竹細工（竹馬、竹とんぼ、水鉄砲、紙鉄砲等）の作り方を、また十二月には藁細工（縄ない、正月のお飾り、草履、亥の子等）のしかたを指導しておりますので、子供等はもとより、学校側や公民館

関係者から喜んでもらっております。また福沢諭吉先生の心訓の「世の中で一番尊いことは、人の為に奉仕し決して恩にきせないことです」を胸にきざみ、これからも健康の許す限り続けてゆきたいと思っております。

魚釣りと盆栽いじりをたのしみにしておりますが、盆栽は鉢に植えているという程度のもので、人にお見せできるようなものはありません。今静かに自分が歩んできた遙かな長い人生をしみじみと振り返りかえり、無量の思いがいたします。

奉仕と健康

三 木 修太郎（多度津）

思い起こしてみると、公社を退職して早くも二十二年になります。

生来健康に恵まれ一度も医者のお世話になつたことがなかったのに、一昨午年七月二十五日突然、心臓狭心症発作におそわれ、地元病院入院し養生に専念したお蔭で、二ヶ月余で退院することができました。

退職当時高松市宮脇町に土地を求め、家屋も新築して安住していましたが、多度津町の旧宅では水田をハアール余り耕作しており、手不足で困っているのが家の留守番をお願いしたいと頼まれて、四十二年三月現住所へ戻りました。早速老人会にも入会しました。

この会は旧四ヶ村一円で会員数も六百五十名の大世帯、五地区連合の組織体になっており私は会の運営全般を預っております。目下老人の福祉の向上と会員のニーズに応じたきめこまかな対応につとめ、会員が自ら生きがいを見つけて、老後の生活を健全でより豊かなものにするため、クラブ活動を通じて社会各層との交流を深め、教養の向上と健

康の増進に資するよう努力しています。

また、明るい町作りを目指し、小さな親切運動の実行番員として、寝たきり老人、独居老人を友愛訪問し、常に老にむちうちながら奉仕に努めております。

拓 本

森 田 政 雄（高松）

公社を退職してもう三年近くになりました。月日のたつ早さには全く驚かされます。

幸い健康に恵まれていた私は、第二の人生を趣味の書芸に求めている私に、第二の人生の日を送っております。これも偏に私を取りまく人々の暖かいお心づかいとご援助があったからだと、感謝いたしております。

私が書の道をこころざし、書に強い関心を持つようになったのは、九年前家内を亡くしてからのことです。この時から老母と子供三人のわびしい生活を余儀なくされ、家族の者たちのためにも強く生き抜かねばと心機一転、発心、かたや自分の不幸と悲しさを克服するために書の道を選んだのでした。よし書道師範になろう!!

それからは、暇さえあれば書齋にこもりひたすら書の練習を続けましたが、家事に追われなかなか思うようにならず、ようやく一昨年秋念願の師範免状をもらうことができました。

この頃だったか、親友から「拓本をしてみませんか」と勧められ、早速例会に出席、よき先輩、友人に恵まれ回を重ねるごとに拓芸も進歩し、最近では拓本に満足し切れず、ついに表装へと発展するようになりました。採拓地も香川、四国はもとより西日本をかげずり廻っているの、結構身体の鍛練にもなり

一石二鳥と言ったことでしょうか。

かくて拓本から表装まで、一連の作業工程を自分の手により、自分の考えを反映させて作品を完成する喜びはまた格別で、この喜びをかみしめささやかな展示会を催すことが今の夢です。

いま過去の数年間をはずかに振りかえってみたとき、趣味を待っていてほんとうによかった、趣味を持つことがどんなに大切であるかを身をもって痛感している次第です。

随

筆



豊饒の生涯—追憶の清秀兄—

高橋 数一 (西条)

五月三日に世を去った清さん(と高橋清秀さんをわれわれは呼んでいた)については、懐かしい思い出が少なくない。

清さんは通講普通科出として同期生中の出世頭であった。確かにそれだけの器量と具えていて、急所は外さぬが些事には拘泥しない大度の人物であった。在職中の卓抜な力量については知る人も多かるうから、ここには友人として観た彼の一面を書いてみたい。

清さんは、あれでなかなか器用なところがあつた。機器をいじるのが得意で、少々の故障ならすぐに直した。戦中戦後の古い話だがよく人から頼まれてラジオ受信機の修理をしたということがある。

また勝負事が好きであつた。中でもパチンコと麻雀には目が無い程であつた。「わしには博才がある」とよく言っていたが、カンの

鋭さが勝負運を強くしていたのであろう。

そして、あるいは勝負事よりも好きであつたのは釣りではなかつたかと思う。退職後の日課は釣りで、それにも清さんは持ち前の器用さを遺憾なく発揮した。鮎漁が解禁になると清さんは加茂川へ精動した。私も一竿知足の徒だから、ある時期、毎日のように川で清さんと顔を合わせたものだ。鮎の季節以外は海浜へ通う清さんであつた。そのため特に軽快な単車を買つたりした。

親友に一足先に旅立たれた私としては寂しい限りだが、在職中はすぐれた手腕で職責を立派に果たし、退職後は最も好きな趣味に没頭し、しかも温良聰明な奥さんの献身を得ていた清さんは、多彩豊饒で幸福な生涯を送つた人だと思ふのである。

顔

高市 沖見 (松山)

制限速度もものは、警笛を鳴らし、人をけ散らし突つ走る車、信号も交通ルールも無視して暴走する車に、ヒヤリとさせられること、しばしばである。

「こん畜生」とふりかえる車が、たまたま〇〇タクシーであつたり、△△商店であつたりすると、「あんなタクシーには乗るまい」「あの店では買うまい」と思つたりするのも、ひとり私だけではあるまい。

およそ社名なり、公社マークが入っている以上、その車は、人は、会社の顔であり、企業イメージにつながる。したがって、たとえそれが僅か一人の些やかな不心得な行為であっても、企業イメージはダウンする。

さる十月十三日の新聞で、はからずも「出張旅費四四〇〇万円も詐取」電電北海道元女

子職員」「電電公社員を逮捕」京都の三外人

ひき逃げ事件」と、ありがたくもない二つの事件が報道された、これは三十分の一の過ぎかもしれない、九牛の一毛に過ぎないかもしれないが、企業のイメージダウンは小さくない。特に、カラ出張事件直後だけに。

それにつけても、われわれOBも、元電電公社員である以上、それぞれの地域社会にあつて、いわば電電公社の顔である。「さすが元電電公社員」といわれるよう、よきイメージを与えるか、与えないか、それはかかつてわれわれの双肩にある。

願わくば、公社のイメージダウンや、後輩を辱しめることだけはしたくないものと、ひそかに心にいきかせている一人である。

民謡

田中義隆 (松山)

父は「還暦にはうんと祝ってもらう」とたのしんでいたのに、病気で酒も飲めなくなつて死んだ。私は古希を過ぎても酒がうまく、父にはなんとなく申し訳がない。

飲めばやはりうれしくなるものの、隠し芸の持ち合わせなどはなく、うたをうたつたりできない。晩酌のときは、好きな民謡を心の中に思いうかべながら、しんみりとした気分になつているのがいちばんよい。

鹿児島県の民謡「串木野さのさ」の歌詞の一つが、気に入っている。「おちぶれて、袖に涙のかかるとき、人の心の奥ぞ知る、朝日を拝む人あれど、夕日を拝む人はない、さのさ」。これはあまり上手にうたうと、感じが出ないのではなからうか。

最近の民謡はブームに乗ってショー化し、眼で見るものになつたが、本来は耳で聞くも

ののはず。「お好きならおけいこしてみませんか」と誘われたが、音痴はラジオで聞いているのにかぎる。

戦艦陸奥

藤田基孝(宇和島)

うっとうしい梅雨の或る日周防大島に行つて見た。濃霧の為欠航している中で私の乗る船だけがただ一便三津浜港から出航した。前方がほとんど見えない暗い海を悲し気に霧笛を鳴らしながら一時間半、目的地大島の東端伊保田に入港した時はほっとした。

港から幾許もない岬の丘に登ると陸奥の碑が高く建つて居り眼下に広がる伊保田の海は白く霧が淀んで静寂そのものだ。この沖で旧海軍連合艦隊の旗艦陸奥が謎の大爆発を起し、一、二名の将兵と共に沈んだとは誰も想像出来ない程海は静かで、思えば三十八年前の六月八日正午過ぎのことであつた。

大東亜戦争の戦機いよいよ醜と云う時に當つて戦わずして爆死した、今は亡き多くの将兵に対し心から冥福を御祈りしたいと思ひます。

陸奥の建造は大正六年着工、同十年の完成で当時世界第一級の戦艦として御召艦ともなり栄光を浴びた超弩級艦であつた。

戦後の二四年から一部の引揚げが行われたが四二メートルの海底作業は困難を極め、その後手をつける者さえなく、昭和四五年に遺族等の熱意で深田サルベージにより引揚作業が再開されて現在に至つてゐる。

今私の立つてゐる丘には陸奥の艦首と言われる十六トンの鉄塊一箇、南の天空を睨んで突立つ主砲一基、直径三メートルもあるうかと思われるスクリュー一基が屋外に展示され

てあり、流れる霧にしつとりと濡れてゐた。傍らの山を切崩した一段高い丘に陸奥記念館がありその門をくぐる。中に入ると身が引締る様な悲し気な音楽が静かに流れてくる。先ず最初に目に映つたのが鋭利に輝く日本刀二振、然し柄は腐蝕して見る影もない、恐らく上級将官の佩刀であろう。

白い貝殻が附着した望遠鏡や常夜灯、電気スタンド、ポット類、腕時計、眼鏡、万年筆のほか糸が少し残っている糸巻や鏝等もあり、どんな水兵が使つていたかと思つて涙が出て困つた。

その外ぼろぼろに朽ちた書類に昭和十七年一月十三日付艦長名による大型丙標的曳航作業命令書があり私の心を引いた。

数限りない展示品をゆっくり見学した後、同島西端の大観荘に一泊した。夕靄に昏れ行く対岸の柳井市の灯、海を渡る大橋が朝霧にかすむ情緒、ともに長く忘れ得ないであろう。

寿 命

横山竹義(松山)

「明治は遠くなりけり」は中村草田男の代表作の俳句の一節で、余りにも人口に膾炙されているところであるが、このことは電友会にも云えるのではなからうか。

電友会会員は一五三〇名(昭和五十六年十月末日現在)とのことであるが、私は会員名簿で明治生れの人を数えてみたが、四四八名で全会員数の二九・三%であつた。さらに明治四十年代生れを除いた人数を調べたが、これは二〇五名で全会員数の一三・四%に過ぎなかつた。

昨秋私は義兄の三十三回忌の仏事に参詣した。その際義兄の次男で国鉄を少し前に停年

退職した甥に逢つた時、私は彼から長命の秘訣は何かと聞かれた。私は別段これという長寿方法を実行してないので、返答に窮してそれは寿命だろうと答えたが、彼はどうしても納得がゆかないようであつた。

さきの一三・四%の中の一人に私が入っていることはどうしても不思議である。私は三歳の時臍胸に罹り、七十年前の医学が今のようになつていない時代に、助骨の先端を二本も切除する大手術をしていたのである。手術の時刻に我が家の近くで鳥が喰ひ合つて落ちたという。鳴声を聞いてさえ縁起が悪いと云われていたので、これは結果が悪くとても助からぬだろうと留守家族は話合つたと、よく亡き母から聞かされた。退院後半年かそれ以上かは記憶にないが、毎日父に背負われて約一里の道を通院した。したがつて幼年時代は全く腫物にさわるの譬えのように育てられたが、それから後は病氣らしい病氣もせず今まで生かされている。

寿命と云つても交通事故の頻発、生活環境の悪化等現代では天寿を完了することは、なかなか困難である。

しいて長命の秘訣と申せば、幼時の虚弱に起因して一生何事にも控目であつたことと、食物の好き嫌いが一切なかつたことであるうか。



山近き里

山内旬一(松山)

高空は早く朝光みなぎらひ光る白雲茜さす雲

かがやける白雲の峰動きをり朝かげみつる山の彼方に

山こゆる雲のかがやき恋しみてしばし立ちるき露づく庭に

山近み朝日子おそししかれども朝の日待つは恋しきものを

山の向うに朝の日あらば嘆くなし庭にまつ問のいのちいさむに

旅

藤 田 基 孝 (宇和島)

朝もやの凝りてかがよふ杉の秀を仰ぎて伊勢のみやしろを行く

潮泡のほとばしる下を押しめぐり朝日に匂ふめおと岩の前

ひとときに雨過ぎしかば那智の滝水幅ひろげてすさまじく落つ

遠く来しみ寺に雨のみだれ降りしぶきあびつつ戀ひのぼりゆく

雲行ける天に向ひて立つ岩の奇しくも似たりますらをのほと



高知やまもも句会

鴨遊ぶ海に向ふて鴨の句碑

野良着脱ぎ白丁となる秋祭

踏みてみて足をとられし自然薯の穴

一山の七堂伽藍紅葉かな

大西 瓶子

野村 俊

溝渕乃文字

岡崎 花子

禅寺の菊無雑作に束ねあり風渡る芒穂先に陽を孕み

雲早き五重の塔やむら紅葉鐘樓の石垣にあり石露の花

鴨を待つ海黄昏れて波立ちぬ何もせずただ雨ながめ秋惜しむ

菓屋根を摺らんばかりの竹の春屋根草の呆けし御堂や菊の供華

崖洗う汐の澄みけり秋の海茶釜塚花枝の降りやまず

堂縁をきしませ貼れる障子かな射干の実の黒ずみて冬に入る

銘水を引きし御手洗底冷ゆる吹き抜けて僧衣を干せり秋桜

井上ひるし

次の方々が亡くなりました。謹んで哀悼の意を表しご冥福を祈ります。

訃報

氏名	死亡年月日	行年	所属
池川信男殿	56・6・20	七十二	高知
石田芳二殿	56・9・3	七十四	鴨島
岡本嘉代子殿	56・9・22	五十二	佐川
佐々木末治殿	56・10・2	六十九	宇和島
小池忠弘殿	56・10・29	七十八	松山
西本勝利殿	56・11・16	六十三	松山
矢野 春殿	56・11・23	七十五	高知
脇田行春殿	56・11・24	五十二	松山
三木忠義殿	56・11・25	八〇	石井

投稿規定

- 一 会員消息 四〇〇字以内
 - 二 短歌、俳句、川柳 五首又は五句以内
 - 三 随筆、随想 六〇〇字以内
- 原稿締切 二月一〇日
原稿の取扱についてはお任せねがいます。

編集後記

▽あけましておめでとうございます。
電友会四国連合会は昨年よりも一五〇名増え一五三〇名の大世帯になりました。会員及びご家族揃って健康で明るい年でありますことを心からお祈りいたします。
▽五七年度の恩給、共済年金改善方につきましては、国家公務員給与改定の引上げ率に準ずるよう、組織と団結の力により、地方、中央を挙げて政府要路や国会議員に対し運動を展開しておりますが、行財政改革の厳しい背景がありますため、苦しい道を開いていかなければなりません。大同団結の力こそ改善につながる唯一の道のように思われます。
(渡部)

電友会四国連合会会報 第三七号

昭和五七年一月一日発行

編集発行 電友会四国連合会

事務局

松山市一番町四丁目(二七九〇)

四国電気通信局内

電話(〇八九九)三六一二〇二三

印刷 四国電話印刷株式会社